



第2740地区 創立/1990年9月29日 認証/1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：八重野 一洋 / 副会長：井手 陽一 / 幹事：筒井 琢磨



2024～2025 年度クラブスローガン

Taste of Rotary

「陽転思考」受容の精神で奉仕の心を

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：委員長 / 稲次 賢一 副委員長 / 井上 亮

委員 / 鶴田 明敏、古川 直記、田維 豪裕、崎元 英伸、香月 章彦、宮崎 正典

本日の出席率 81.63% : 会員数 54名・出席 30名・欠席 8名・出席規定免除会員 10名・ビジター 0名
 前々回の修正出席率 79.16% : 出席 29名・メイクアップ 0名



会長挨拶 / 八重野 一洋君



こんにちは。段々と春めいて暖かくなって過ごし易くなって参りましたが先週話したばかりですが、直後に寒波となり真冬に逆戻りのような寒さが襲ってきました。

先週の職場訪問例会は有意義な見学ができたと思いましたが、昨年沖縄の旧海軍指令壕を訪れたとお話しましたが沖縄のそれとはまた変わった感じの指揮所であったと感じました。

印象的だったのはトイレが水洗トイレであったことです、半信半疑便器を覗いたら底が見えポットトイレではなかったのを確認しました。80年前既に水洗式だったとは驚きました。職業奉仕委員会の川上委員長準備から当日見学までありがとうございました。

昨日は東南クラブさん主幹によるインターシティミーティングがホテルフラッグスで開催され国際青少年交換委員会、委員長の徳永隆信（有田RC）さんによる「今一度青少年交換プログラムを考える」というタイトルで講演を受講することができました。私が入会した2003年当時以降暫くは交換留学生の送り出しや受け入れが盛んであったと記憶しておりますが段々とフェードアウトまではいきませんがそんな話もほぼ持ち上がっていないように感じておりましたら全くの内容に触れ受け入れるクラブ、ホストファミリーの負担金などについて詳細に説明をされておりました。近い将来お子さんをと考えてる松尾啓一君が熱心に質問されていました。是非実現させてあげて下さい。

講評の中では石坂和彦ガバナーが「長いロータリー活動歴の中で私自身青少年交換について知ってる風で実は良く理解していなかった、今回のミーティングで良く分かった素晴らしい講演だった」と称賛されましたが流石お褒め上手だなと聞いておりました。ご参加いただいた3年未満及び会員の皆様長時間お疲れ様でした。

Report

幹事報告 / 筒井 琢磨君

1. 例会変更・休会

* 佐世保ロータリークラブ

日時 3月26日（水）18:30～

場所 名切コアイノベーションセンター
観桜例会開催のため

2. 来信

■ガバナー事務所

・第5回地区職業奉仕WEB勉強会募集

3月19日（水） 19:00～20:15



ニコニコボックス

八重野 一洋会長・井手 陽一副会長・筒井 琢磨幹事

本日は第7回クラブ協議会となっております、担当の「SAA、親睦例会活動委員会、式典例会・出席委員会」の皆様よりお願いいたします。

馬場 貴博君

先週の例会、ドタキャンしてすみません。川上委員長に対してお詫びのニコニコします。

吉野 英樹君

石井君の栄転を祝してニコニコします。出世しすぎて日経の「私の履歴書」に掲載される時は必ず佐世保中央RCの話も書いてくださいね。

馬渡 圭一君

結婚記念のお花ありがとうございました。殺伐とした食卓が少しだけ明るくなりました。

石井 雅人君

本日が最後の例会出席となりました。思い起こすと3年前、前任者から引き継ぐ形でこのクラブに入会

しましたが、ロータリーがどのような組織かもわかっていないこんな若造を温かく迎え入れてくださり本当にありがとうございました。このクラブで須吾s ち田日々は私にとって一生忘れる事の出来ない財産となりました。これからも皆様のますますのご活躍とクラブの発展を心よりお祈り申し上げます。

本日の合計	23,000 円
本年度の累計	729,500 円



本日の卓話

◆第7回クラブ協議会◆

親睦例会活動委員会 吉野 英樹委員長

クラブ協議会ということですので、「親睦」の意味をみんなで共有するためにお時間をいただきたいと思います。諸先輩方の前で恐縮ですが、クラブ協議会ですのでどんどんご指摘いただければと思います。私が入会して一番気になったことがこの「親睦」の言葉です。同じ団体に所属しているので仲間意識は当然では、と、いつも気にしていました。1921年にエンジンバラ大会で、ポール・ハリスは「ロータリーの原動力は親睦です」と述べられました。キャッチーな言葉だからかなと当初は感じていました。しかし、歴史を知ることとこの言葉の本当の意味が分かったような気がします。



皆様ご存じのように、この15年前の1905年、シカゴの片隅の小さな集いが生まれ、そのエネルギーがやがてアメリカ全土そして世界中に広がっていきました。そのエネルギーの源泉は一体何か。ロータリーは「始めに親睦ありき」とよく言われています。仲間内で商売回して利益あげていけばいいじゃん、当時のシカゴは発展の真っ最中で移民も多く、取引の信用がとても乏しかった為に必然的に集い発展したのでしょうか。

拡大していくロータリーですが、翌1906年に、弁理士であるドナルド・カーターに入会を勧誘したところ、クラブの互惠主義の説明を聞いて、『君達はお互いに助け合って、豊かになって楽しいだろうけど、入れない同業者は一体どうなるのか。職業を持たない一般地域社会の人達は一体どうなるのか。私達は、この地域社会に生まれ、地域社会に育てられ、地域社会にお世話になって暮らしている。このお世話になった地域社会に何らの恩返しもしない。何らの足跡も残さないで、自分達だけが助け合って隆々と栄えて、やがてこの世を去っていく。そのようなエゴイズムの団体は永続性が無いだろう。自分は、二度とない人生を、そのようなエゴ

イズムの世界におくことはできない』と言って入会を断ったそうです。痛く反省したポール・ハリスは職業人の親睦のエネルギーを世のため人のために使おうと考えるに至りました。すなわち

『我らの親睦のエネルギーを世のため人のために』という奉仕の考え方が出てきました。翌1907年、アーサー・フレデリック・シェルドンによって職業奉仕、原理的なロータリーの奉仕概念が開発・完成されて、親睦だけのロータリーから親睦と奉仕のロータリーへと変化しました。1911年の大会で、ロータリーの第一標語である初期の「超我の奉仕」(Service Above Self)と第二標語である「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」(One Profits Most Who Serves Best)の初期の文言も採択されました。

メインストリームが奉仕に傾倒する中、従来からの親睦を重視するメンバーからの不満の声も増えてきたころのポールハリスの言葉こそ、最初に述べた「ロータリーの原動力は親睦です」の言葉につながるのでしょう。親睦メインか、奉仕メインなのかの対立は続き、親睦いわゆる理念提唱派は、自らの職業で利益を適正に配分し、職業倫理を高め自己研鑽に励み、奉仕活動は個人の立場で行うべきである。いわゆる職業奉仕派ですね。そして奉仕実践派は、社会的弱者に対する人道的奉仕を実践すべきで、金銭的な援助やクラブとしての活動も積極的に行うべき。いわゆる社会奉仕派ですね。

理論と実践両派の対立はますます深まっていったので、1923年8月の決議に至ることになります。そう覚えましたよね「文見よみんなのロータリー哲学」23-34 決議において両方大事だによって決議され今に至るといのが、いわゆる「親睦」と「奉仕」がロータリーの両輪であるという経緯です。

1923年といえば日本はどうでしょう。翌月の9月1日関東大震災に際し時の第13代RIP、ガイ・ガンデッカーは即座にRIとして支援金を送付されています。その後戦争でRIから離脱したりしますが、この年は日本とロータリーとの関係でも大事な年だったんですね。



SAA：田中 啓輔

次回例会 3月13日 18：30～